令和３年度　後期生徒会役員選挙オリエンテーション 資料

令和3年9月14日
校長　高瀬 知郎

雄山中学校を「生徒自治の学校」に！

＜生徒会とは？基本的な考え方＞

- 言うまでもなく、学校の主人公は「生徒」である。（生徒のいない学校はただの箱）
- 学校は、そこに集う生徒が知恵を出し合い、力を結集して「理想の学び舎」を築く場所
- 生徒の力だけで難しいときは、教職員や保護者の力を借りて実現する。
- 生徒会は、「生徒自治」の中心。全校を主導し、学級・学年の自治力を高め、「理想の学校づくり」を力強く推進する。
- そのために、「雄山中学校を県下一の学校に進化させる」という高い理想を掲げ、全校生徒の気持ちを一つにまとめることが大切
- そして、「自分たちの問題は、自分たちで話し合って解決する」という民主主義の基本に基づき、話合いを積み重ねることによって集団を成長させていく。
- その過程を通して、「学校（社会）を創っているのは自分たち一人一人なのだ」という自覚を高めていく。
- その積み重ねが、学校全体を向上させるとともに、一人一人を人間的に成長させる。
- 生徒会役員選挙は「理想の学校づくり」について全校で語り合い議論する場

＜雄山中学校の課題は何か＞そのために何ができるか？

安心して生活できているか？

- 学校の主人公である生徒一人一人が、今、学校で幸せな毎日を送れているか。
- 実は困っていたり、トラブル等で悲しい思いをしている仲間はいないか。
- 学校が、いじめや嫌がらせのない、安心して生活できる「心の居場所」となっているか。

将来につながる学習（自分づくり）を大切にしているか？

- 生徒一人一人の学習権（学ぶ権利）は保障されているか。
- みんなが1時間1時間の授業を大切にし、日々成長できているか。
- 家での学習や読書はできているか。（ゲームや動画視聴等に時間を奪われていないか）

教職員の願い

教育は、生徒一人一人の幸福を実現するとともに「未来を創る」営みである。
そのために、生徒、保護者、地域、教職員が力を合わせて、次のような学校を創造したい。

温かい人間関係を基盤として、

〇生徒と教師が共に学び合い育ち合う学校
（リスペクト、互いへの感謝、同僚性、全人格的成長）

〇いじめ・暴力・からかいのない安心して学べる学校
（人権尊重、生徒自治、学びの保障）

〇「人を信じ未来を信じて生きる力」を育む学校
（心の居場所、絆づくり、人生の基盤）